

「今月の1枚」

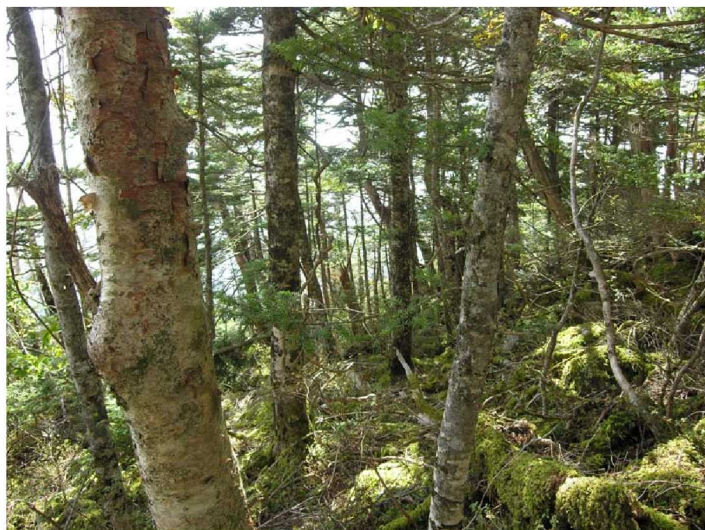


写真1



写真3

剣山のシラビソ (*Abies veitchii*)



写真2

剣山から一の森にかけての稜線付近に成立しているシラビソ林（写真1）とシラビソの高木（写真2）。

剣山のシラビソ林は石鎚山のシラビソ林とともに四国の亜寒帯を特徴づける樹木です。

シラビソは日本の固有種ですが、四国のシラビソは本州のものに比べて球果が小さく丸みがあり、シコクシラベとして区別することがあります。針葉はより低所に生えるウラジロモミとよく似ていますが、若枝に毛があることと、枝に溝がないことで区別できます。

このシラビソ林でシラビソが多数枯死していた箇所がありました（写真3）。一見すると林が何らかの原因で崩れ始めているように見えますが、林床にはシラビソの若木が旺盛に成長していました。寿命が比較的短いシラビソが集団枯死した後、若木がその林床に密生しているのは本州のシラビソ林でもよく見かけます。これがシラビソの世代交代のやり方です。林が衰弱しているわけではありません。

（写真・文章：加茂 皓一，徳島県剣山にて2006年10月14日撮影）

（No.148 2006.12.13 掲載）